

令和4年度鶴岡市立図書館協議会 会議概要

○日時: 令和4年9月28日(水) 午前10時~11時30分

○会場: 図書館本館 講座室

○出席委員

草島陽子委員、池田達枝委員、宮島昭子委員、五十嵐武委員
三浦洋介委員、本間 積委員、安藤幸子委員、鈴木 邦委員
小野寺せつ委員、鈴木和子委員

○欠席委員

中村ちか子委員、笹山一夫委員、井上裕子委員

○市側出席職員

図書館長 武田綾子、館長補佐 今野 章、社会教育課長 沼沢紀恵
主査 松田亜紀子

○公開・非公開の別 公開

○傍聴の人数: なし

○会議内容

1. 開 会

2. あいさつ

3. 報告・協議

(1) 令和3年度図書館事業報告(要覧P7~19)

(2) 令和4年度図書館重点施策と主要事業について(要覧P20~24)

(3) 利用者アンケート結果について

(4) その他

【質疑・意見】

委員) 分館で行っている他の分館の蔵書の貸出コーナーは良い取り組みだと感じた。図書館のHPから入れば予約も分館のものを借りることもできるが、そこまで繋がらない方も多くいる。目の前にあると、他の館にも行ってみようということにも繋がる。大変良い取り組みである。

事務局) 分館の司書たちは、コロナの前は年に2~3回ぐらい集まって情報交換と情報提供等の会議をしていたが、コロナ後は集まることも難しく回数も減っている。今年は6月1回開催した。分館で行っている他の分館の本を集めたコーナーは、分館の司書の発案。自分の担当する分館にはない、他の分館の本を見てほしいということからの積極的な事業。

委員長) 分館職員が年数を経ると更にこうしたらというアイデアも出てくるのは良い。

委員) 「読書のまち」とうたっている割には予算が少ない。地域の分館にはもっと人がいて、話しやすい感じで、スタッフも1人でない方が良い。

副委員長) 羽黒分館は、以前は司書が1人もいなかったが、今は司書がいて話も通じるし、本の位置を聞いてもきちんと示してくれるのでありがたい。気になっているのが、廃校になった小学校の図書館にいろいろな本もあり活用したいと地域に申し入れたが、その活用は難しい状況のようである。

事務局) 建物等は教育委員会で管理していると思うので、管理課、学校教育課と相談してみたい。市立図書館では古くなった本をリサイクルし市民の方々に差し上げている。地域の公民館で、地域の人たちが読めるようにしたいと、取りに来たこともある。地域で活用するという手立てもあるかと思うので、関係課と相談していきたい。

委員長) 是非活用するためにみんなで知恵を出していければありがたい。

委員) 閉校した山戸小の場合、当時の校長・教頭先生にお願いし山五十川公民館と戸沢公民館に図書室という形で置いた。検索して本を借りるとことに関しては、自分が地域の本好きの方からのリクエストの予約を手伝っている。本が届いた時、なぜ羽黒の本が来たのかとその方は驚いている。図書館ごとに得意分野があるので、他の分館の本も多く届くので驚いているようだ。

委員長) 鶴岡市全体を見直して、リサイクルの本、眠っている本があるのならば活用してほしい。本館は夏休みになると人が多く自由研究の本もなくなるので、積極的に郊外の分館を活用している親御さんもいる。本館では特定の有名作家の本は貸出中のことが多いが、分館に行くと新しいのがある。だから分館相互もいいけれど、分館の本を本館に回してもらいたいと思うときもある。

委員) 本館で貸出禁止の本を分館に行って借りることもある。そういう活用の仕方を広く知ってもらうことも必要。先ほどの図書購入費の話で、予算を見ると、図書購入費が80万円減額されている。市の総合計画にも読書推進が取り上げられているのに減額になるのは変な話である。図書購入費は図書館の生命線である。もう減額にはならないように、増額に持っていけるような手段を財政当局に持っていく方策を色々考えていただきたい。本当に守ってもらいたい。新しい図書館も大切だが、今の図書館をどうしていくかが課題。

委員) 一利用者として、展示が少しずつ変えてあり工夫が見られて良い。アンケートの件に関して、自分は子どもの仕事と高齢者の仕事をしているので、子どもの声はいいと思う。図書館に来て子どもの声が聞こえるのは、自分達は、子どもの声は近所でも聞かれないので良いと思っている。新館の建物は、立地的には交通の便の良いところをお願いしたい。

事務局) 今年度予算は残念ながら 80 万ほど削られてしまったがこれ以上下がっていかないよう、食い止めたいところである。

委員) 学校に学習支援で入っている。本との様々な出会いがある中で、どう本に出合わせるかが非常に大事である。夏休み明けに市立図書館から団体貸出として30冊ずつクラスに配置になった。その本がどれも読みごたえがあり、読み聞かせをすると子どもたちが本当に聞いている。図書館に行ってシリーズの続きを探すなど、そういう広がりがある。団体貸出の時の選本は、非常に良い本を選んでいただいて感謝したい。学校の中で学級文庫は置いてあるが、学校では司書の先生が各クラスにそこまで選本をして配置するのは大変である。先程「親子で足を運

びたくなる図書館」という話があったが、子どもが「今度この本借りたい」という時にバーコードを見て市立図書館の本だとわかり、学校の図書館にはないけど市立図書館にあると声をかけるとそこから繋がりが生まれる。小さなことだが、そんな繋がりがあると思った。

委員) 自分達のボランティアの読み聞かせは、3年前に比べると依頼量が1/3に減った。今までは分館主催のおはなし会が5回あったが、今年も去年も2回しかできていない。参加するお子さん、おうちの方はとっても楽しそうにおはなし会に来て聞いてはしゃいでいる。小学校の司書もしていたので、学校で子どもと本の関わりを見るのも大変微笑ましくて楽しかったが、おはなし会はおうちの人と一緒にやって来て本を楽しむという姿は、見ていて自分が元気づけられる。本当に楽しそうに聞いているので、是非とも来年はもう少し増やして頂きたい。

委員) 酒田の図書館に行ってみたが、児童書のスペースがものすごく広く蔵書が多くて、学校図書館の3倍くらいの蔵書もあって、良いと思った。閉鎖的でないオープンスペースで蔵書がたくさんあって、子どもと一緒に読めるスペースも多かったのが羨ましい。こういうスペースが鶴岡にもあったらいいと思う。ただ全部が全部建て替えられる訳でもないの、既存のものをどのように利用してという話しにも納得できるし、本館だけでなく分館のいいところを残しつつ、さらに利便性、例えばバリアフリーのことや、閉架書庫をどうするのか、蔵書数は山形市にも負けなくらいあるので、どのように仕舞っていくのかということも大事だし、どちらに向かうのかわからないが、開放的で、みんなで本を楽しめてという場所づくりがとても大事だなと思った。

委員) 廃校になっている割と新しい小学校を再利用できないか。遊ぶスペースもある、駐車場も完備、図書室には冷暖房も完備している。耐震もあり、建て替えたばかりなのに廃校になったというところがまだあるのであれば、利用していただくと、地域の方がボランティアとして入る。学校から帰ってきた子どもたちは居場所ができるし、小さいお子さんを抱えたお母さんが、お金使わなくても行ける場所ができるのではないかと思った。

委員長) そういった施設があるのであれば地域の力を活かして活用できないか。図書館もそうだけでもっと広い意味での子育てとか地域のつながりみたいなという意見だと思う。

(委員) 文教都市鶴岡には年配の方を含め本当に図書館を愛する人がいると思う。そういう声が施設面でも市の方に届くようになればいいと思う。協議会として意見を出す場所ではないのかもしれないが、子どもたち或いは生涯学習のためにも必要な施設だという事を言っていく必要があると思う。

委員長) 昨年度今年度小学生の司書体験で別の角度から図書館を経験させていた。人を集めるのは容易でないが、そういうきっかけで人は来る、予想以上に来る、また今年も来るという事で、スタッフの方の努力は素晴らしい。読み聞かせてただ読んでもらう、何かしてもらうだけでなく、参加した小学生が自分が司書としてなにか役に立ちたいとか。小学校高学年や中学校は図書館とのつながりが薄い、YAのコーナーもすごくいい。いまコロナで難しいが、おじいちゃんおばあちゃんへ読み聞かせとか、土曜日保育園へ読み聞かせに行こうとか、自分たちがやる、そ

うすると子どもの顔を見ておじいちゃんおばあちゃんがうれしいとか。そんなことも新図書館構想で、箱だけでなく子どもたちの活躍の場とかそういうこともまちづくりにつながるのかと思った。

4. その他

(事務局より)

令和4年度第42回山形県図書館大会について

5. 閉 会